平成28年度新霊合祀慰霊祭

１１月５日（土）１１時～、附属小学校体育館で「平成28年度新霊合祀慰霊祭」を開催しました。当日は、すばらしい天候のもと、来賓に「児玉修宮崎大学副学部長、安田繁顧問、緒方明夫顧問」の３名を迎え、６名の地区代表、４名の評議員、７６名の会員、１８名の本部役員、附属中合唱部員とその保護者若干名（総計１６０名）の参列のなか、厳かな慰霊祭を開催することができました。

参加者のとりまとめをしていただきました代議員の先生方をはじめ、会員の皆様方に心から感謝申し上げます。写真を中心に御報告いたします。

■　平成２８年度新霊合祀者名（６４名）

山口　ノブ　様	長友　藏　様	後藤　哲郎　様	川並　陸郎　様
下郡　カツ　様	太田原　俊彦　様	橋山　國昭　様	石川　勇　様
山口　シゲノ　様	岩本　定勝　様	井上　悟　様	小瑶　英彰　様
猪狩　政江　様	那須　よしの　様	丸山　和美　様	深城　哲男　様
三輪　重猪　様	井上　秋三郎　様	佐藤　康則　様	
小坂　正明　様	中小路　幸明　様	竹下　忠正　様	
田爪　コシナ　様	本田　昭美　様	家弓　盛男　様	
小川　芳子　様	岩切　祐臣　様	都甲　一正　様	
岩満　美代　様	平野　平　様	上村　照子　様	
鳥原　通憲　様	芳村　融　様	金丸　福男　様	
中村　忠夫　様	中村　義春　様	乙守　保正　様	
渦尾　延之助　様	柏谷　純孝　様	阿久井　利八　様	
的場　賢二　様	新地　文夫　様	木宮　正治　様	
小城　豊子　様	川田　重義　様	河野　通利　様	
戸髙　満喜子　様	藤井　八重子　様	久保　行男　様	
藤崎　利夫　様	甲斐　典子　様	小嶋　徹　様	
松本　忠志　様	松尾　フジ子　様	三輪　正樹　様	
元明　榮成　様	山野　練太郎　様	立元　久夫　様	
白坂　善照　様	田實　信郎　様	渡辺　英俊　様	
横山　勝郎　様	内田　順子　様	小篠　信吾　様	

■　黙　祷

■　送魂追悼の調べ（附属中学校合唱部の皆さん）

○　附属中学校合唱部の本年度の活躍

「水上美玲（みなかみ　みれい）」さんを部長に、正部員１９名、応援部員２０名の計３９名で活動。

- ５月の宮崎国際音楽祭のワンコインコンサート参加
- ＮＨＫ全国学校音楽コンクール宮崎県大会金賞受賞
- 九州・沖縄ブロックコンクール銀賞受賞
- 全日本合唱コンクール宮崎県大会金賞受賞
- 同九州大会金賞受賞、佐世保市教育委員会賞受賞
- 全国大会出場権を２年ぶりに獲得し香川県での全国大会銅賞受賞

○　追悼の歌：大きな古時計、千の風になって

■　会長慰霊の詞

菊薫る、今日のこの日、ご遺族をはじめご来賓ならびに多くの木犀会会員参列のもと、母校宮崎大学教育学部附属小学校の体育館を斎場として、平成２８年度、木犀会招魂の碑に、合祀されました御霊に対し、謹んで慰霊の言葉を申し上げます。

母校の跡地に安置されております招魂の碑は、そばにそびえる金木犀の木から見守られ、毎年輝くばかりの金色の花や、そのふくよかな香りとともにいつも優しく祀られております。

そしてまた、あの太平洋戦争の宮崎空襲で、一瞬にしてその尊い命を失った師範学校附属小学校のいとし子十二名が、今年もまた、正門の横に安置されています供養の碑の前に並び、静かに御霊を迎えてくれました。御霊におかれましては、今一度、そのいとし子一人ひとりを優しくてやってください。

ここに合祀されました平成２８年度の御霊は、先ほどご芳名を申し上げましたとおり、６４名となりました。私たち会員は、お一人おひとりのご芳名に接するごとに、看護に身も心も捧げられたご遺族の限りない寂しさや悲しさを思い、その心情に心揺さぶられながら、ご生前の優しいお姿や自らの熱情を教育一筋に打ち込まれた、ひたむきな生きざまを思い起こし、折に触れて頂いた厳しくも身に染みる励ましのお言葉など、様々な思い出が頭をよぎり、限りない哀惜の情が万感胸に迫っているところでございます。

この斎場は御霊を慰霊するにあたって、会場の設営を私たち会員とともに、大学附属小・中学校のご厚意により、附属学校職員・児童・生徒の献身的なご協力によってなされました。これは今も変わらない母校愛と母校に学んだ者同士の強い絆の成せる証しであると確信しております。

母校は、遠く学園木花台に移転して２０数年になりますが、その際、旧教育学部にありました金木犀の木を株分けし、記念樹として教育文化学部（現教育学部）周りに植栽されたと聞いております。その若木は緑鮮やかに大きく成長し、今や旧跡地の木犀に負けず劣らぬ香りを漂わせており、次代を担う気鋭に満ちた学生諸君の行き交う姿を、温かく見守り、励ましております。このように、たとえ母校が遠く離れましても、営々と築かれた母校との絆は木犀の木を通して脈々と引き継がれています。

現在教育学部では、木犀会との百有余年の伝統を継承しながら今日の激しく変化する社会の要請に対応した新しい大学改革を推進し、「地域に根差した大学づくり」をモットーに平成２８年４月より、「教育学部」に生まれ変わりました。中でも宮崎大学の４学部が連合した「宮崎大学同窓会連合会」が結成され、毎年、卒業生が大学に帰ってくる行事である、「ホームカミングデイ」が企画され、各学部同窓会の連携が成されております。一昨年は、連合会も大きな歴史的節目を迎え、「宮崎大学創立３３０記念式典」が１１月８日挙行され、その記念事業として、学部図書館の北側に、多目的ホールや学生支援部及び売店を備えた「創立３３０記念交流会館」が落成しました。この交流会館を見たとき、これからの学生諸君のキャリア支援と交流の場になり、母校の歴史に明るい未来が拓かれるものと確信いたしました。私たち同窓会も、学部との連携を一層密にして母校の発展に寄与すべく会員一丸なって協力・支援することを誓い合っているところであります。このような取り組みは、また、御霊から私たちに託された願いでもあると信じております。先人の言葉に「故人を崇めるには、故人の飽くなき努力の足跡を尊び、学ぶことによって、崇めなければならない。」とあります。私たちもこの言葉を胸に刻み、御霊の積み重ねられた輝かしい功績を尋ね、学び、そして発展させ、すべての御霊のご期待に沿えるよう日々精励することを御霊の前にお誓いいたします。どうぞ、天界より見守っていただき、よろしくお導きください。

最後に、すでに招魂の碑に収められておわします御霊におかれましては、ここに合祀されます新霊を、温かくお迎え頂くと共に、母校のゆるぎない発展と木犀会の一層の充実を見守ってくださいますよう心からお願い申しあげます。

それでは、改めて、御霊のおん安らかなることをお祈りしながら、ご遺族の皆様のご健勝とご多幸を心から祈念し、慰霊の詞といたします。

平成２８年１１月５日

木犀会　会長　前田　稔

■　遺族代表の詞

１１月５日、新霊合祀の慰霊祭を催していただき、又、本日を迎える為に、木犀会の事務局の皆様の御労苦に心から厚くお礼を申し上げます。

私ごとですが、２年くらい前の食事の時の話ですが、母は、

「私は１００歳まで生きるよ。」

「へー１００歳ね。頑張んない、応援するよ。ところで、

１００歳過ぎて、別の世界に行くとしたら一番誰に会いたいね。」

と聞くと、私を指さして、

「やすちゃん（私の名前は靖)。」と言うので、

「母さん、おれはまだ行くわけにはいかんが。」

「上に先に行っている人よ。」と言って、指を上に立てると、

「お父さん。」と言って恥ずかしそうにしていたのを覚えています。

「母さん、向こうで、父さんに会ったら電話しないね。状況報告よ。最初にどんな話がしたいね。

私のことをあんまり悪く言いなんな。考えると別な意味で楽しくなるね。」

母は、「うん。必ずするわ。あんた達の悪口言うもんね。」と言って、笑っていた母も、９９歳５ヶ月で会いたい父の元へ旅立ちました。

母の命を、この年まで守ってくれたのは献身的に見守ってくれた妻のおかげです。私もですが、母は一番妻に感謝していました。「昌子」さんという名前を何度呼んだでしょうか。

母からの連絡がないのは、携帯番号を教えるのを忘れたせいじゃないかと、妻と話しつつ、母を偲んでいます。

さて、本年度合祀していただく方は、多方面で自分の持てる能力を発揮された方々であり、一人一人の生き方は、異なってはいますが、木犀会の会員として合祀していただきましたことに、家族として大変うれしく思います。本当にありがとうございました。

最後になりましたが、御出席いただきました来賓の皆様、木犀会員の皆様、本日の心遣いに私たち遺族は、感謝申し上げ、又、御多幸を祈念して、お礼の言葉とします。

平成２８年１１月５日　　遺族代表　田爪　靖

■　献　花

【 会　長 】

【 御 遺 族 】

【 児玉副学長 】

【 安田顧問 】

【 緒方顧問 】

【 川崎日南支会長 】

【 黒岩小林地区評議員 】

【 他の献花者 】

○　地区代表：西國原吉市様、谷口紀洋様、山口満雄様、石川安雄様、奇藤美奈子様

○　評 議 員：渡會政徳様、満行孝一様、大久保芙美子様

○　木犀会代表：肥田一郎様

■　招魂祭の歌

○　指揮：田爪　久遠　氏

◎　偲ぶ会

■　御遺族集合写真